

---

神戸港港湾審議会第33回計画部会

議 事 録

---

---



たい。

(委員) このような計画を考える際は施設単体で考えがちだが、導線というのは一種の都市内ネットワークであり、都市内ネットワークを作る上で市内を歩き回るための導線を確保するのはとても重要だと考える。これは他部局との総合的な議論になるかと思うが、今後も前向きに検討を行っていく、ということに理解する。

(委員) 防波堤の構造について、現時点で何か構想はあるか。

(事務局) 来年度の設計を考えているため、今後の検討となる。船舶の航行など、様々な課題があると認識した上で今後も検討を進めていく。

(事務局) 水域に入るのは小型船舶なので、静穏度等を踏まえて検討していただきたい。それに加え、市民が海に親しめるような構造を考えていただきたい。

(事務局) そういった点も踏まえ、今後も検討していく。

(委員) 当該地区に残る既存の倉庫を今後どうしていくかについて、それらを神戸らしい形で残すなど、前向きな形で検討していただきたい。

(事務局) そのような古い倉庫群を活かすことも念頭に置きながら、今後も再開発を進めていきたいと考えている。

(委員) 防波堤を作るということだが、防波堤の中の小型船舶は何隻程度の予定か。

(事務局) 第1突堤・第2突堤間の水域利用に関しては民設民営で考えており、事業者の提案を受けた上での港湾計画の変更を予定している。従って、隻数は民間事業者の提案次第となる。

(委員) 具体的な検討は今後、ということに了解した。

以上の審議の結果、満場一致により原案を可決した。

## (5) 閉会